

# わたしの 効果倍増! 教材活用術

## 「学力調査型テスト」を活用して 学力アップを図りませんか？

福岡市立小学校 前田 文字

自校の児童の学力を図る指標として、先生方はどのような方法を取られているのでしょうか？

その方法は、自校だけの狭い指標になってはいないでしょうか？

単元ごとのテストで、ほとんどの児童が80%以上取れることは、テストの点数欄に赤字で全国平均点が書かれていることからもご存じでしょう。それにもかかわらず、まとめのテストや全国学力・学習状況調査、都道府県独自実施の学力調査等では得点できず、「あれ？」と思われることも多いと思います。単元ごとのテストが、児童の客観的な学力を図る指標になり得ていないということは、先生方もお感じになっているのではないのでしょうか。

### 1. はじめに

本校では、学力向上部を立ち上げて4年目になります。

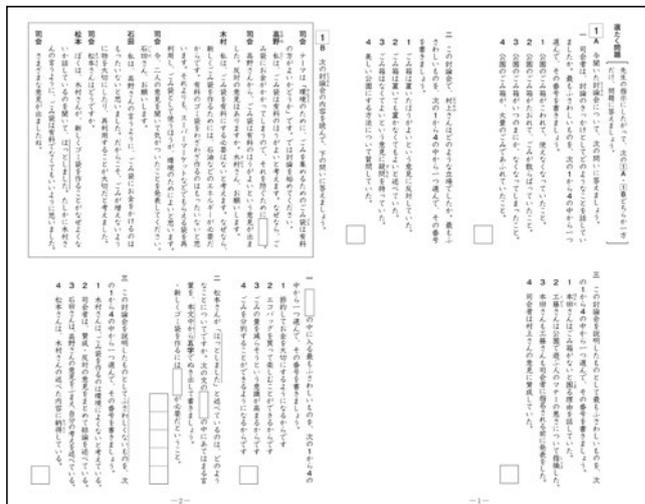
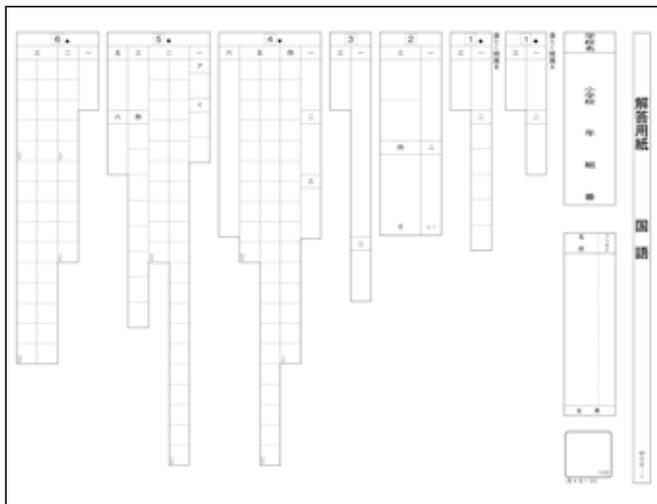
1年目は、学力向上部の役割は何なのか

からず、手探りで、「共通の学習規律」や「学習環境の整備」、「家庭学習の手引き配布」、「朝タイム(国語のモジュール学習)・昼タイム(5分間の算数タイム)の整備」などを行いました。まずは、学習環境や補充時間の整備に力を置き、周辺から整備した形です。

しかし検討を重ねるに従って、

「ところで、うちの学校の児童の実態は？」という学力向上のコア(核)に関わる疑問が部会で取り上げられるようになりました。本校全体の児童の学力の実態を、客観的に把握する術がなく、各学年それぞれの担任に任せられており、児童がどこでつまづいているのか、何が得意なのかの把握ができていなかったのです。つまり、「何(どの領域)を」「どのように」指導すれば効果的なのか明らかになっていなかったのです。

そこで、2年目にあたる平成26年度から、「学力調査型テスト」を全学年で導入することにしました。



▲「学力調査型テスト」。解答用紙と問題用紙は別紙になっている。春(前学年範囲)と冬(11月末までの範囲)の年2回、無料。

日々の授業で使う教材や教具。

隣のクラスや隣の学校のあの先生は、一体どんな使い方をしているのでしょうか？

このコーナーでは、気になる教材活用術を紹介します。

## 2. 導入の目的

「学力調査型テスト」を導入した目的は、以下の4点です。

- ①本校の児童の学力の実態を把握するため
- ②本校の児童の、得意・不得意な観点を把握し、指導に生かすため
- ③本校の児童の学力が、全国との比較で、どのレベルに位置しているかを把握するため
- ④全国学力・学習状況調査および、福岡市学習定着度調査において、解答方法で戸惑わないようにするため

## 3. 手立てと分析

### ①本校の児童の学力の実態を把握するため

単元テストではない、客観的に児童の学力を図る手段として、これまで「全国学力・学習状況調査」と、福岡市が独自に行っている「学習定着度調査(4・6年生)」がありました。これで、該当学年は全国と比較した学力の実態が把握できます。しかし、それ以外の学年も、客観的に児童の実態を数値化して、学校全体の児童の実態を「見える化」する必要があります。あったのです。

導入するにあたり、担任の負担を減らすため、また、教師全員が学力の実態を把握するため、専科教員が採点を行うことにしました。採点すると見えてくることがあります。「この学年は、漢字はよく書けているけれど、接続

語が苦手だな」「この学年は、漢字が全く書けていないな。その代わり、読解はよくできるな」「この学年は、単純な計算問題でミスが多い」「この学年は、文章問題がよく解けている」などの、学年の傾向です。採点後、観点別正答率を出します。すると学年ごとに、得意・不得意な観点が明らかになります。

### ②本校の児童の、得意・不得意な観点を把握し、指導に生かすため

朝タイムの内容と年間計画(2学期)

曜日	月	火	水	木	金
内容	国語・算数	国語・算数	算数特別 ハンドブック 活用	国語・算数	読書 (委員会交代)

【朝タイム(月・火・木曜日)年間計画(2学期)】

日	活動内容
8	朝タイムの開催内容
9	第1週 朝読書、読み取りや練習題
	第2週 朝読書、読み取りや練習題
	第3週 朝読書、文の組立て
	第4週 朝読書、文の組立て
10	第1週 朝読書、文の組立て
	第2週 朝読書、言葉の意味
	第3週 朝読書、言葉の意味
	第4週 朝読書、読み取り
11	第1週 朝読書、読み取り
	第2週 朝読書、読み取り
	第3週 朝読書、読み取り
	第4週 朝読書、読み取り
12	第1週 2学期の漢字の学習
	第2週 2学期の漢字の学習

▲朝タイム(15分間)は国語のモジュール学習を行う。

昼タイムの内容と年間計画(2学期)

タイトル	
いくつといくつ3	1～5はいくつといくつ
いくつといくつ2	4～8はいくつといくつ
いくつといくつ3	6～10はいくつといくつ
いくつといくつ4	いろいろないくつといくつ
いくつといくつ5	10はいくつといくつ
いくつといくつ6	10はいくつといくつ
たしざん1	15問
たしざん2	15問
たしざん3	15問
たしざん4	15問
ひきざん1	15問
ひきざん2	15問
ひきざん3	15問
ひきざん4	15問
たしざんひきざんミックス1	右側たしざん左側ひきざん 合計25問
たしざんひきざんミックス2	右側たしざん左側ひきざん 合計25問
たしざんひきざんミックス3	完全ミックス 25問
たしざんひきざんミックス4	完全ミックス 25問
たしざん 1のひきざん1難	25問
ひきざん 1のひきざん1難	25問
くりあがりのたしざん1	15問
くりあがりのたしざん2	15問
くりあがりのたしざん3	20問
くりあがりのたしざん4	20問
くりあがりのひきざん1	15問
くりあがりのひきざん2	15問

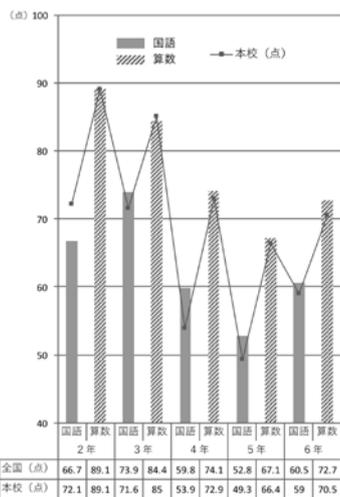
▲昼タイム(5分間)の算数は3分で解いて2分で答え合わせをする。

各回、問題の難易度により、観点別正答率は上がったたり下がったりしますが、その都度、得意・不得意な観点が明らかになり、指導内容の改善を図る必要性が出てきます。各学年の得意・不得意な観点が明らかになったら、不得意な観点を学習し直すために、朝タイム・昼タイムの計画を立て直し、実践します。

児童一人ひとりの経年変化を見取るために、導入から3年間の個人データと学年別正答率をデータとして蓄積しています。この3年間の個人データと学年別正答率は、一覧表にして研修時に各担任が閲覧できるようにしています。

「学力調査型テスト」の良さは、年2回実施できることです。本校では、年度始めの4月の早い時期と、12月に実施するようにしています。これにより、4月の結果で不得意な観点を明らかにし、12月にその不得意な観点を克服できているか検証できます。12月の結果がよかったら、学習し直しの手立ては効果的で、間違っていないこととなります。

③本校の児童の学力が、全国との比較で、どのレベルに位置しているかを把握するための「学力調査型テスト」もうひとつの良さは、全国でこのテストを導入している学校の平均点と、本校の平均点を、新学社のHP上で比較できることです。教科書の問題ではない、いろいろな出題形態が用意されている、子どもにとっては「普段のテストとは違う、難し



▲図1 平成26年度 全国と本校の平均点比較

#### 4 3年目の結果

題用紙に書き込んで、解答用紙に書き込むのを忘れた！」という児童は、もういません。

平成26年度に導入した際、全国平均点と一番差のあった4年生(現6年生)を例に取ってみたいと思います。左の表をご覧ください。

導入から3年間の正答率の推移です。前にも書きましたが、毎回問題の難易度により、観点別正答率は上がったたり下がったりするの、一覽表を見ただけでは学力の伸びはあまり感じられません。

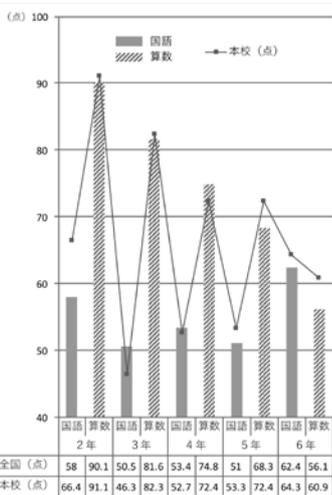
<算数>				
	技能	知識理解	考え方	合計
4年生 4月	88	75	57	73
4年生 12月	79	73	47	67
5年生 4月	67	71	80	71
5年生 12月	71	71	74	72
6年生 4月	83	61	46	61

<国語>					
	話す聞く	言語	読む	書く	合計
4年生 4月	29	82	50	25	54
4年生 12月	59	52	58	43	55
5年生 4月	64	39	33	71	48
5年生 12月	77	39	54	55	56
6年生 4月	66	79	65	37	64

▲現6年生の正答率推移

全国平均点と比較してみましょう。

図2は、平成28年度4月の全国平均点と本校の平均点を比較したものです。この学年は図1の4年生時点では全国平均点と比較し、国語、算数ともに下回っていたのですが、今春は国語、算数ともに上回っています。また、



▲図2 平成28年度 全国と本校の平均点比較

これは、3年間全教員で児童の学力向上に地道に取り組んだ成果です。この結果は、教員の励みにもなりました。3年間重ねてきた、「児童の実態を明らかにして、得意・不得意な観点を分析する。不得意な観点を学び直しの計画を立て、実践を重ねる」手立ては間違っていないことになりました。

また、この学力調査型テストは全国平均点と比較できることから、児童の学力を図る指標として、客観的(広い指標)であることは明らかです。本校では、学年末の学級編成資料として活用している学年もあります。

今後、観点別平均点もHP上で公開されるようになれば、全体平均点だけの比較ではなく、観点別に分析が可能になります。より一層、活用の幅を広げ、児童の学力向上に役立たいと考えています。

その結果、国語・算数ともに、全国平均点よりも得点できていない学年が多いことが明らかになりました。これで、本校が全国と比較して、若干学力が低いことが明らかになったのです。

#### ④全国学力・学習状況調査および、福岡市学習定着度調査において、解答方法で戸惑わないようにするため

「全国学力・学習状況調査」、「福岡市学習定着度調査」は、問題用紙と解答用紙が分かれています。「問題を読み」、「理解して解答し」、「短い時間だが解答を記憶」し、「解答用紙に書き込む」ことに普段から慣れさせておくことで、戸惑うことが少ないと考えました。今年度で、導入して3年目になりますが、「問